

## 平成20年度「連絡会」、自然林再生の方法で大いに議論

平成21年2月6日（金）、江別市野幌公民館を会場に野幌国有林での団体型森づくり参加11団体（レディースネットワーク21が都合で欠席）が集まり「野幌森林再生活動連絡会」を開催しました。

各団体の活動は下刈等の保育へと移ってきていることから、当センターから各団体の参考になるようニセアカシア母樹の伐採結果と、約100年前に設定された旧野幌試験林の現況について情報提供するとともに、意見交換の時間をたっぷりと設けました。

以下に、主な意見交換の概要を紹介しますが、私たちにとっても示唆に富む意見を多くいただき、改めて国有林として、しっかりとした方針を示す必要もあると考えた連絡会でした。

（団体A）私たちが植えた植樹地は、長い目で見ないと結果がわからないと思っているので、センターから提供のあった旧野幌試験林の調査が参考になった。調査の結果をまとめて後世に残してほしい。



（団体B）100年前の森を思い浮かべ、植栽樹種を選んだ。また天然の復元力も知りたいので、市民参加で更新木の調査をすると、私たちの植えたヤチダモやカツラが多く発生していた。

（団体C）野幌の過去500年間の花粉分析から見ると、種の構成は今とそんなに変わらない。1万年前に遡るとグイマツがあったようで、変遷の過程を調べて今後どうするか重要だし、旧試験林の扱いなど全体的な国有林の方針を聞きたい。

（事務局）野幌には学術的な試験林や天然林などいろいろな林分があるが、今後は、区域分けして考えるべきと思われる。

（団体D）ニセアカシア駆除は、市有林で4年間取り組んでいるが、継続的な刈り払いで萌芽はかなり減らせた。根気よくやると結果は出る。私たちは、野幌でも母樹の伐採などの支援ができる。

（事務局）昨年3月のニセアカシアの母樹伐採は、支障木が避けられないものは見合わせたものもあり、今後、さらなる伐採を検討している。

（団体E）野幌の森は、試験林から始まり自然休養林となって、今後は、生物多様性を重視するのがこの森の役目だと思う。私たちは、そのため多様な樹種を植えたが、

かなり枯れてしまった樹種もあり、このままでは心配だ。区域分けすることなど指導をいただきたい。

(団体C) 植物と土壌の研究をしているが、100年前の森林は土壌に適した植物があったが、台風で攪乱されると土壌も変わる。今植えている樹木ですぐには育たない木があって当然で、10年単位くらいで方法を見直していくと良い。

(事務局) 野幌プロジェクト開始時の専門家による「検討会」でも、単一樹種の人工林がまとめて倒れたという分析であった。今回の再生は、天然林被害地は自然の推移に任せ、人工林被害地は多くの樹種を育てようということで進めている。

(団体D) 目指す森林がすぐできると思うのはまちがい。高標高地の人工林はかつては不成績人工林といわれたが、今は立派な広葉樹林になっている。

(団体E) 野幌は平地林であり、人手をかけてしっかりと育てることも必要だと思う。

(団体D) 平地林でも天然更新が盛んなので、植えた後は自然に任せることで良い。

(団体E) 野幌でも区域分けして、それぞれ考えるのが良い。

(団体F) 12団体の再生方法は違っても良い。毎年モニタリング調査をし、その情報をみんなで共有していくことが大事だと思う。

(事務局) みなさんから示唆に富んだ話をいただきありがたい。100年前の原始性が感じられる自然林を目指す、という大目標を外さない範囲で、それぞれ自主性を生かした森づくりをお願いしたい。今日の討論の続きは、また現地を見ながらみなさんとしていたいと考えている。

(文責：石狩地域森林環境保全ふれあいセンター)